

I 研究の概要

1. 主題及び副題

主体的に考え、学び合う児童生徒をめざして

—思考力を育む授業づくり—

2. 主題及び副題設定の理由

変化の著しい現代社会を心豊かに、たくましく生きていくために、確かな学力をもち、「生きる力」を身につけた児童生徒を育てる教育が求められている。そのため本校では、教育目標を「郷土を愛し、心豊かでたくましく、創造的に生きる児童生徒の育成」と掲げ、医王山の豊かな自然や伝統・文化等にふれ合いながら、自ら考え主体的に判断したり、学びを共有して、よりよいものを創り上げたりする資質や能力・態度の育成をめざした。

金沢市小規模特別認定校である本校は、地域外から多くの児童生徒が入学または転学し、その人数の占める割合は8割を超えている。本校に登校する児童生徒の中には、個々の特性や環境による要因から人間関係づくりや学力に課題を抱えている子どもたちもいる。そんな子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、GIGAスクール構想の下、ICTを活用しながら基礎・基本を習熟させ、それらを活用するための思考力の向上を図ることで主体的に学ぶ児童生徒の育成をめざした授業づくりを進めてきた。

昨年度は、「児童生徒が積極的に対話を進める」「課題に対してのまとめを自分の言葉で書く」を重点に掲げて研究を進めた。「対話」については、積極的な対話につなげるためのICT活用力や聞く力の個人差、グループワーク形式の検討、教師の問い返しや確認によって深め合う場面の工夫などの課題が残った。「まとめる」については、児童生徒の発達段階に応じた系統的な指導によって、まとめの内容を自分の言葉で、かつ大切なキーワードを抜き出して書けるようになってきた。しかし、児童生徒側の課題として、文章を短くまとめ、要旨を書く力が弱いこと、教科用語が定着していないこと、教師側の課題として、課題とまとめの整合性がとれていないこと、まとめやふり返りができるようなタイムマネジメント力の必要性などが明確になった。

今年度は、医王山小学校が「金沢型学習スタイル実践推進事業・プログラミング教育推進校」に指定されたことを受け、次の2点に焦点を当てて研究を進めることにする。まず1点目は、授業を細分化しスモールステップでできることを積み上げ、ドリルやプリント等の反復学習で学習内容を定着させながら、基礎・基本の習熟をめざす。合わせて、語彙を増やすための読書活動の推進や効果的な場面でのペアやグループ活動も進める。2点目は、培った基礎的基本的な学力を土台とした思考力、特にプログラミング的思考力を育てる授業づくりをめざす。単元でつきたい力を見据えた単元計画のデザイン化や思考を視覚化したフローチャートやベン図等の思考ツールの活用、ジャムボードに書き込んだ考えをカテゴライズし、並び替えるなどICTの効果的な活用を行いながら授業づくりを進めていく。また、前年度までの研究で進めてきた「積極的に対話を進め」「まとめを自分の言葉で書く」ための取り組みも生かしながら思考力を育むようにする。

この2つの重点を通して、研究主題・研究体制を小中で一本化し連携を図りながら、本校の特長である9年間を見据えた指導、少人数でのきめ細かな学習指導のもと、授業の充実を図り研究主題に迫りたい。

3. 研究計画

	全体研究会	研究授業など
4月	全体研究会 ・研究主題についての共通理解・協議 ・授業研究の方向性の検討	
5月	全体研究会 ・事前研 ・提案授業 25日（小：山本） 5限：研究授業（他クラス：自習） 5限後：授業整理会，児童生徒下校 指導・助言：金沢市教育委員会 学校教育センター 水由指導主事	
6月		原則として6月から12月の間に 研究授業を一人1回行う。
7月		
8月	全体研究会	原則として6月から12月の間に 積極的ふらっと授業を一人1回行う。 （学期に1回、研究授業かふらっと参観を行う）
9月		
10月	全体研究会 ・事前研 ・全体研究会 17日（中：岡田） 5限：研究授業（他クラス：自習） 5限後：授業整理会，児童生徒下校 指導・助言：金沢市教育委員会 学校指導課 林指導主事	
11月	全体研究会 ・事前研 ・全体研究会 17日（小：城崎） 5限：研究授業（他クラス：自習） 5限後：授業整理会，児童生徒下校 指導・助言：金沢市教育委員会 学校指導課 番作指導主事	
12月		
1月	全体研究会 成果・課題のまとめ（小・中分科会）	
2月		研究紀要の作成
3月	全体研究会 次年度に向けての方向性・実践内容の確認	

Ⅱ 成果と課題

1. 小学校

(1) 重点的な取組の実践

①重点1「基礎・基本の習熟」について

導入や考えをもたせる場面での既習掲示の活用

授業のはじめに、前時の内容の確認や習熟問題に取り組む時間を設定した。前時をふり返った後に提示された問題

(題材) と比べることで、児童に課題の意識づけをし、問題解決までの見通しをもたせることができた。また、自分の考えをもつ場面で、壁面やホワイトボードに掲示した既習【資料1】を見て問題解決の手がかりを探す児童もいて、効果的に活用することができた。



【資料1 既習の掲示の活用】

本時で身につけたい力の明確化と系統性

「本時で身につけたい力」を軸にした授業展開を考えるにあたり、教科用語等必ず押さえない基礎・基本のポイントを洗い出し、指導案に位置づけた。また、「まとめを自分の言葉で書く」ことが基礎・基本の習熟につながると考え、キーワードを板書に位置づけたり、教科書等に印をつけたりした結果、児童は黒板を見てキーワードを見つけ、まとめを書くことができた。

今後の課題として、研究授業を行った時間・単元だけでなく、継続的・横断的(学年・教科)に基礎・基本の洗い出しが必要、という指摘を受けた。教師・児童が系統性を意識できるように、学習内容の系統表の作成・掲示や、カリキュラムへの位置づけなど、具体的な取組を講じたい。

反復練習と適用題による習熟

授業の導入や朝学習の時間(英語STも含む)、家庭学習などで計算や英語のチャンツ、漢字ミニテストなどを反復練習することで、基礎・基本の習熟を図った。しかし、漢字ミニテストは満点でも、学期のまとめのテストを見ると十分な定着に至らないなど、定着が難しい児童も多い。児童の実態に合わせた個別指導も取り入れながら、繰り返し、継続的に取り組んでいきたい。

また、研究授業の事前研では適用題の重要性が話題に上った。授業の中で見出した問題の解決方法を使って他の問題を解き、その方法が有効であると実感する(一般化)という一連のプロセスが学習内容の習熟につながる。適用題の時間を取れるようタイムマネジメントに留意したい。

学習内容と日常生活との関連づけ

5年社会「コンビニのコピー機にはどんなサービスがあるだろう」では、児童が普段利用する学校近くのコンビニのコピー機の画像を提示することで、日常生活をふり返りながらコピー機のサービスへの関心を引き出すことができた。6年算数「比例の関係」の学習では、画用紙300枚を数えないで用意する方法について考えた後、重さを量ればわかるという方法が実際



【資料2 紙の重さを計測し確かめる】

に使えるかどうかを計量器で計測して確かめることで、児童に方法の有効性を実感させることができた【資料2】。このように、児童の身近にある教材の提示や日常生活に生かせるような体験・具体的操作などを通して、「基礎・基本の習熟」に結びつけることができた。

②重点2「プログラミング的思考力を育む授業づくり」について

「医王山Pro的シコー5」の設定

プログラミング的思考力（以下、的シコー）を焦点化するため、NHK for Schoolの「テキシコー」を参考に5つに類型化し【資料3】、教室の掲示に位置付けた。授業者は、「的シコー5」の型に照らして授業をデザインすることができ、自分の授業を整理する材料として効果的だった。また、「これは的シコーの○番だね」と意識して教師が声に出して価値づけることで、児童にも的シコーを意識させることができた。

的シコーについては教師側の捉えが曖昧な面もあり、それを育むことのよさについて校内研修会等で学び、共有を図る必要がある。

いあせんフロで 医王山Pro的シコー「5」

1. 小さいわけて考える
2. 手順の組み合わせを考える
3. パターンを見つける
4. 大事なものだけぬき出して考える
5. 頭の中で手順をたどる

【資料3】

「プログラミング的思考力」の具体化

パターンを見つけやすくする板書の構造化

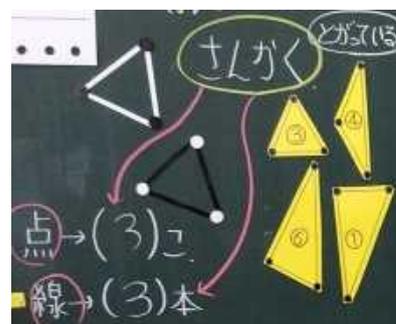
5年算数「複合図形の体積」では、「的シコー③パターンを見つける」ために児童から出た考えを横並びに板書し、比較しやすくした。このように板書を構造化すると、「直方体に変形する」というパターン【資料4】を見つけやすくなった。授業整理会では、チョークの色による色分けや矢印でつなぐことで、よりパターンを意識できるという助言をいただいた。また、パターン化するには、児童の考えとして3こ以上出れば、比較して共通性や規則性を見つけやすい。児童が考えるための十分な時間を取ったり、個別に声かけをしたりする必要がある。



【資料4】板書の構造化によって思考を整理する

教材・教具の工夫

2年「三角や四角の形を調べよう」では、図形の「頂点」と「線」に着目させるために、マグネットシートでそれぞれの部品パーツを準備して提示した。その結果、三角形・四角形の「頂点」「線」の数が分かりやすく、「大事なものを抜き出して考える」上で効果的だった【資料5】。



【資料5】点と線の要素に着目させる

論理的に考えるための話型やノート指導

プログラミング的思考力は論理的思考力につながると考え、「はじめに」「次に」・・・「終わりに」など順序立てて説明できるように話型を提示して繰り返し指導した。ペアやグループ交流では、自分の考えが相手に伝わるように意識しながら伝え合う姿が見られた【資料6】。ノートに自分の考えを書く際に、結論から書く・「○○だと思う、わけは・・・」など根拠を明確にして書く・順序立てて書くなどの書き方指導をくり返し行うことで、論理的に自分の考えを組み立て、表現する力が育ってきた。



【資料6】ペア交流で自分の考えを伝える

③検証と結果について

児童・教師アンケートを年2回（7月と12月）実施し、研究の重点に関わる取組の有効性について検証した。各アンケート結果【資料7】からも成果を実感することができた。

アンケート内容	肯定的評価の割合 (4段階中4・3を選択)		7月と 12月 の比較
	7月	12月	
重点1 今勉強していることが分かる。(児童アンケート)	98%	96%	-2%
重点1 授業で基礎・基本の習熟のために問題演習したり,必要な用語やキーワードを押さえたりなどしている。(教員アンケート)	100%	100%	—
重点2 授業の中で,大切な言葉や要素に着目させたり,印をつけるよう指導したりするなどしている。(教員アンケート)	100%	100%	—
重点2 <u>根拠を明確にして</u> ,言葉や式,図などを使って自分の考えを書くようノート指導している。(下線部は中・高学年)(教員アンケート)	100%	100%	—

【資料7 研究の重点の指標となる児童・教師アンケートの結果（7月・12月の2回実施）】

(2) その他の取組の実践

①ICTの活用

授業の中での学び合いやふり返りの場面でICTを活用する場面が多く見られた。算数の授業では、大型TVに課題の図形を提示したり【資料8】、端末で図形に補助線等をかき込み、オクリンクで送って比較・分類したり【資料9】、手元でかき込んだホワイトボードの画像を大型TVに映し、考えを説明したりすることは、考えの見通しをもち、対話を深める点で有効だった。

さらに、動画機能を使って中学生への英語のメッセージ動画を作る授業では、「撮影する→視聴する→課題を見つける→撮り直す・・・」を繰り返すことで、基本表現が定着した。

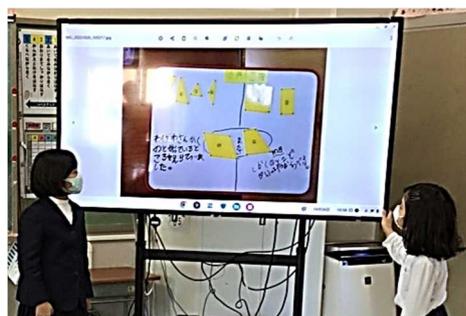
以上のように、導入の話題提起や内容把握、対話の一手段としてICTを活用することで、対話が活性化し、児童の主体的に学ぼうとする意欲を引き出すことにつながった。しかし、児童がICTの操作にかかりきりになって、活動の目的が二の次になってしまうことがあった。また、教師も操作に手間取り、授業が間延びしてしまう場面もあった。今後、必要に応じてノートやワークシートなどの非ICTと併用するなど、柔軟な手立てを取りながら、活動の前に子どもたちに目的を明確に示すこと、教師の情報リテラシーを高めることを意識して、日頃の実践を進めていきたい。



【資料8 TVに課題の図形を提示する】



【資料9 かきこんだ図形をオクリンクで送る】



【資料10 TVを使って考えを説明する】

さらに、月に1回、火曜日の朝学習の時間に図書館司書や図書ボランティアや先生方によるクラス単位の読み聞かせを行った。

12月には、細川律子先生をお招きして『昔話や民話を聞く会』を行った。今年度も1～3年と4～6年生に分けて行い、低学年は手遊びを交えて心を解きほぐし、しっとりと昔話や民話の読み聞かせをしていただいた。高学年は、宮沢賢治について、資料を用いながら丁寧に説明していただいた後、「どんぐりと山猫」の読み聞かせをしていただいた。読み聞かせが始まると、細川先生の温かい声が響き渡り、児童は物語の世界に引き込まれていた。



細川律子先生の読み聞かせ

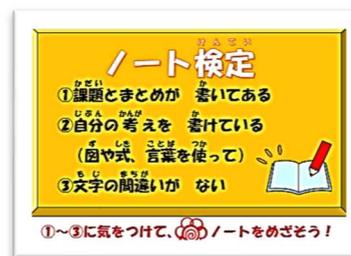
これらの取り組みにより、言語感覚が磨かれ、豊かに表現する児童が増えてきた。

⑤ノート検定

研究の重点である「基礎・基本の習熟」の取組の一つとして、自分の考えをしっかりと言葉や図で書いたり、まとめを自分の言葉で書いたりする力をつけるために、ノート指導を行った。

年度はじめに全校で統一して指導する「基本的なノートの書き方」を提示し、児童の共通理解を図った。その基準をもとに、「ノート検定」の取組を学期に1回実施し、めあてに沿ってノートを書けているか担任や校長が確認した。また、優れたノートを「はなまるノート」として廊下に掲示し、いつでも児童が参考にできるようにした。

取組の結果、基本的なノートの書き方が定着し、教師が丁寧に評価することで児童の実態を把握できた。また、児童の意欲向上につながった。



提示した「基本的なノートの書き方」

⑥家庭学習の定着

めざす授業をつくるときの基盤となる家庭学習の習慣が定着するように、学期に1回、家庭学習強化週間を設けた。また、ゲーム・スマホ・テレビなどを見ない、使わないようにする「メディアチャレンジ」も合わせて行った。保護者の方々の協力を得ながら、家庭学習に集中して取り組めるよう指導し、家庭学習への意識化を図った。

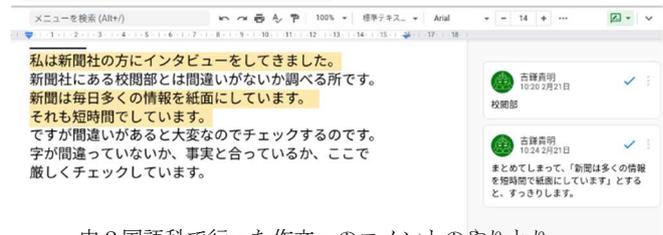
2. 中学校

(1) 重点的な取組の実践

①重点1 「基礎基本の習熟」について

本年度は、プログラミング的思考力の育成に向けて、まず基礎基本を徹底することに重点を置いた。各教科で、授業の初めや単元の終わり、また帯活動等で、基礎知識を確認しながら進める取り組みを行った。1年間を振り返り、各教科で成果が見られた取り組みを紹介したい。

国語科では、「ドキュメント」で作文の宿題を配信して取り組ませた。生徒の作文を直接添削することもできるし、コメントをやりとりすることができるので、個別の支援に役立てられた。また、授業で視聴した動画や使用したスライドなどを



中2国語科で行った作文へのコメントのやりとり

クラスルーム上に貼り付けておくことで、復習に活用させることができた。社会科では、1学年において、毎時間、地図帳を開いて国名と首都名を探すクイズを40問程行った。その結果、4月当初は簡単な国名がわからない生徒がいたが、1月には、ほとんどの生徒が満点をとることができた。数学科では、定理や性質を習得するための図形プレートを作成し、授業のはじめにプレートを掲示した。理解の定着を促すために何度も活用し、曖昧な部分を整理することで力が付き、小テストでも成果を確認することができた。また、随時、前時までの復習として、公式や定理をモニターに映して、基本の習熟に務めた。理科では、授業の導入時に前時の用語の確認をした。この際にノートを見直す習慣が身についた。また、確認テストや再テストなどを行い、基礎基本の徹底に務めた結果、基礎学力調査等でも成果が見られた。英語科では、1学年で、授業のまとめにつながるキーセンテンスを、次回の授業のはじめに毎回ミニテストとして行った。この



中1英語科で行った Mini Test

過去形の文をつなげた①のテスト

ミニテストに向けて、5回以上練習することを宿題とし、家庭学習を習慣化した。また、さらに2文以上のオリジナル文を付け足すことができたなら花丸とすることで、競い合ってオリジナル文を作成し、毎回ほとんどの生徒が花丸になることができた。音楽科では、常時活動としてわらべうた遊びを行った。ここで自然な発声の習得や人間関係づくりができた。また、リズム指導を繰り返し行うことによって、リズムがわかり、楽譜を読めたり音楽を作ったりすることにつながった。保健体育科では、保健では、前時の範囲の穴埋め問題を本時の前に必ず行い、既習事項を押さえることができた。体育では、例えばバスケットボールの場合、基礎であるドリブルやパス、シュートなどの技能チェックを定期的に行うことで、ゲームなどの実践の場面での正確性につながった。

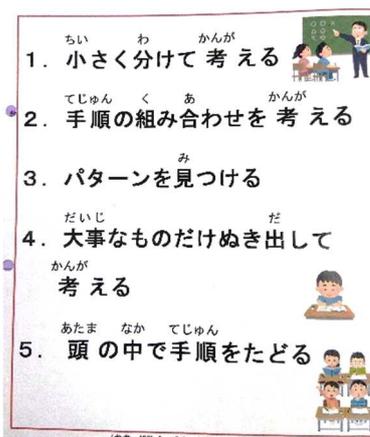
この様に、各教科の特性により、基礎基本の習熟へのアプローチの仕方は様々であるが、教師各々が同じ目標に向かい積み重ねていくことによって、1年間で大きな成果があったと感じている。しかし一方で、12月の学習アンケートによると、学習に対する苦手意識が高まっている生徒もいる。本校の特性でもあるが、毎回続けて授業に参加することが難しい生徒や、家庭での学習時間の確保まではいたらない生徒もいる。すべての生徒が、自信を持って安心して学習に取り組むことができる環境作りや、少人数ならではのきめ細やかな配慮をしながら、より多くの生徒に学ぶ喜びを感じてほしいと考えている。小さなことでも「できる」「分かる」から生まれる学ぶ喜びを感じてもらえるよう、まずは、基礎基本を大事にすることを、来年度も継続していきたいと考えている。

②重点2「プログラミング的思考力」を育む授業作りについて

本年度は、プログラミング的思考力を育む授業作りに向けて、「まずは何ができるか試行錯誤をしよう」からスタートした。「プログラミング的思考力とは何か」をテーマとした校内研修から始まり、本校の取り組みの視点として、「医王山 Pro 的シコー5」を掲げた。各教室に5つの視点を掲示し、それらを意識して、各教科で何ができるかを模索してきた。

国語科では、思考を可視化するために「ジャムボード」を積極的に活用した。個人で考える場面では各生徒にボードのコピーを配布し、みんなで考える場面ではボードを共有することで、個の時間と集団の時間を分けて設けた。社会科では、世界の各州や日本の7地方を学習する際に、各州・地方の特色を知るために、「農業」「工業」「商業」に分け、さらに「農業」を稲作・野菜・花に分ける、さらに・・・という様に、「1.小さく分けて考えること」を意識した。また、信長や秀吉の偉業について考える授業では、さまざまな偉業の中で大事だと思うものを抜き出し、なぜそう思ったのかを考えさせることで人物像にせまった。ここでは、「4.大事なもののだけ抜き出して考える」ことを意識した。数学科では、図形の証明を考える際に、Dマークコンテンツで四角形ABCDの形を変形させながら考えさせた。また、GeoGebraのカードを生徒に送り、GeoGebraを操作しながら、特別な平行四辺形である「長方形」「ひし形」「正方形」にもなることに気付かせ、元の四角形に“ $AC \perp BD$ ”の条件や“ $AC = BD$ ”の条件を付加すればよいことにつなげた。「2.手順の組み合わせを考える」ことや、「3.パターンを見つける」「4.頭の中で手順をたどる」など複合し、思考を深めることができた。理科では、実験を行う際に、必ずはじめに「自分たちで課題解決をするためにどのような実験をしていけば良いか」を考えさせる場面を大事にしてきた。生徒間で、手順をしっかり考え、自分の考えを持ったり書いたりする能力に、差がある現状があるが、問題解決型のスタイルを常に意識し、思考力を養ってきた。英語科では、生徒の実態から、つきたい力として、「相手の気持ちを考えて対話をつなげていくこと」を重視してきた。授業では必ずペアになり、対話する場面を作った。その際に、相手にどのような内容を伝えるかを考え、整理し、相手の立場になって何を伝えるかを選ぶ場面を作った。対話には相手がいるため、相手の反応によっては伝える内容を、転換したり、選択したり、または元に戻ったりする。その課程でプログラミング思考力につながることを目標とした。音楽科では、音楽教育の国際的指標であるコダーイ・メソッドを取り入れており、創作の授業ではパターン化したリズム唱を覚え、それを使ってリズムアンサンブルを創作する学習に取り組んだ。保健体育科では、年間を通し、振り返りの際に考える場面を重視してきた。柔道では、動画撮影を行い、技の形などを振り返った。バスケットボールでは、各生徒のシュートの本数の集計をグラフ化して、自らの課題を見つけ、考察した。また、フォームのアンケート機能を活用し、それぞれの生徒が本時での

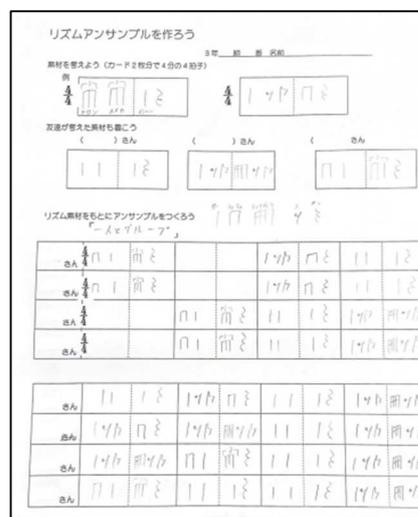
いおうぜん フロてき 医王山Pro的シコー「5」



各教室に掲示した「医王山 pro 的シコー5」



中3国語科 ジャムボードを使用し、写真から読み取れる情報を整理する場面



中3音楽科創作授業「リズムアンサンブルを作ろう」での生徒作品

り、選択したり、または元に戻ったりする。その課程でプログラミング思考力につながることを目標とした。音楽科では、音楽教育の国際的指標であるコダーイ・メソッドを取り入れており、創作の授業ではパターン化したリズム唱を覚え、それを使ってリズムアンサンブルを創作する学習に取り組んだ。保健体育科では、年間を通し、振り返りの際に考える場面を重視してきた。柔道では、動画撮影を行い、技の形などを振り返った。バスケットボールでは、各生徒のシュートの本数の集計をグラフ化して、自らの課題を見つけ、考察した。また、フォームのアンケート機能を活用し、それぞれの生徒が本時での

課題を見つけて送信し、集計したものを全体に共有した上で振り返る場面を設定した。この設定により、考える → 実践する → 考えるの繰り返しを行うことができた。

この様に、各教科で何ができるかを模索し、実践してきたが、2月に行った教員へのアンケートによると、「医王山 Pro 的シコー5」

の重視したい項目も教科によって様々であることがわかった。教科によって視点や手段は違っても、最も必要なことは、つけたい力を明確にして教員間で共有することである。「どのような目的で行うか」を明確にし、また各教科の進捗状況や、学年間の情報共有も大切にしていきたい。

バスケットボール 技能チェック		
ゴール下シュート		
日付	回数	記録
2023-01-12	1	6
2023-01-17	2	13
2023-01-30	3	13
2023-02-07	4	8
	5	
	6	
	7	
	8	

<ルール>
 足元の青いシールからゴールした記録を記入する。
 ＊シールの位置からずれないようにシュートする。
 ・制限時間は、1分間。
 ・ペアで回数を確認しながら行う。
 ・マックス回数は22回。

<表の入力の仕方>
 黄色の罫線を入力する。
 ・日付はダブルクリックをするとカレンダー表示になる。
 ・記録はプルダウンから選んで入力する。

中3体育 バスケットボールシュートの技能チェックシート

(2) その他の取組の実践

① 読書推進

生徒の読書活動を推進するにあたって、「図書館や読書が身近に感じられる」ような取り組みを行った。年度当初の「図書館オリエンテーション」は全学級を対象に行い、図書館での約束や図書の借り方などを確認した。その際、十進分類を参考に「本を探す」活動をすることで、読みたい本を探すだけでなく、調べ学習で必要な本を探す練習をすることもできた。実際に、総合的な学習の時間や社会科の時間に調べ学習をしたときは、積極的に図書館を利用する生徒の姿が見られた。また、貸出冊数目標を可視化し、生徒の「本を借りよう」という意欲を喚起している。図書館の入り口に貸出冊数目標を掲示し、自分の目標達成率を確認する生徒の姿が見られた。さらに、生徒の読書の幅を広げるため、月に1回教員によるブックトークを行っている。紹介した本は図書館に提示し、生徒に貸し出せるようにした。生徒の関心も高く、貸し出しの順番待ちになることもあった。中学3年生の生徒が



貸出冊数目標の可視化



教員によるブックトーク

自ら下級生にブックトークをするという活動も行った。スライドを活用しながら自分たちが読んだことのあるおすすめの本を紹介し、1・2年生の読書の幅を広げるきっかけになった。様々な本を手にとってもらえるように、展示する本を定期的に入れ替えるなどの工夫もしている。常設コーナーとして国語科の教科書「本の世界を広げよう」で紹介されている本を集めて展示している。教科書の該当ページのコピーも合わせて置くことで、興味を引くように掲示した。その他にも、先述のブックトークで紹介したものを展示したり、音楽の授業で「琴」を扱う時期に合わせてコーナーを設置したりするなど、タイムリーな展示を心がけている。国語科で学習する題材に合わせた掲示物の工夫もしている。「おくのほそ道」では地図と本と一緒に展示し、読んで気に入った俳句を書いて貼るという参加型の掲示を行った。小学生も参加し、古典に親しむ機会となった。



「おくのほそ道」の掲示物

図書館ボランティアの活動の一環で、季節の風物をテーマにした飾り付けを行っている。これにより、図書館に足を運ぶ児童生徒が増えるだけでなく、一つの「居場所」として機能している。昼休みには、図書館で展示されている本を見たり、工夫された掲示物を話題に会話したりする生徒の姿が見られた。司書や教員が生徒に声をかけるきっかけにもなった。また、本校の図書館は、放課後に中学生がスクールバスを待つための場所としても使われているため、放課後の図書室利用につ

いても、建設的なものとなるような取り組みを考える必要があると感じている。

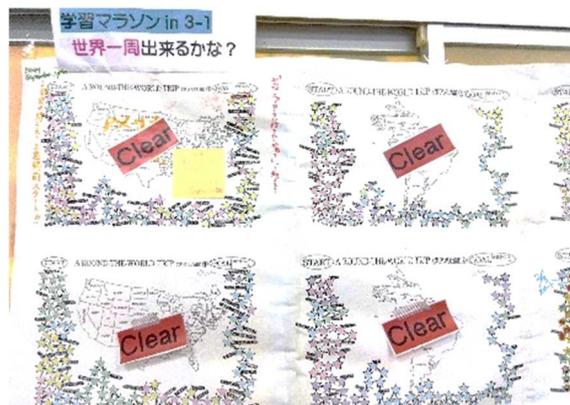
②家庭学習の充実

家庭学習習慣を身につけさせるために、学習時間が可視化されるような取り組みを行った。

1年生では、テスト期間の生徒の学習時間を毎日集計し、全員の学習時間の合計を生徒に示して掲示した。1人の学習時間1時間につき、一枚の紙切れを貼っていき、「貼り絵」を完成させようという掲示物である。これにより、「自分の学習時間は短いかもしれない」と考えて徐々に学習時間が長くなった生徒もいた。また、貼り絵の完成が近づくと、「完成させたい」という思いも働き、学習時間が延びるという傾向もあった。完成すると達成感もあり、定期テストのテスト期間には、毎回この掲示を行った。3年生では、定期テスト2週間前から、「学習マラソン in 3-1 世界1周できるかな?」を行った。世界7大陸の国名や地方名が書いてあるステッカーシートを教室に掲示し、1時間につき1枚のステッカーを毎日貼った。アメリカからスタートし日本に戻ることを目指して、仲間と競い合って学習することを呼びかけた。最も学習時間が多い生徒を表彰することで家庭学習時間の確保につながった。



中1 学習時間の記録と貼り絵



中3 学習マラソンの掲示物

③朝学習の取組

朝の15分間を利用して1週間毎に漢字、計算、英単練習を行った。週の終わりに、力試しテストを毎週行うことで学習意欲が高まった。高得点を目標として、家庭学習に励み、成長している生徒もいた。また、昨年度のアンケート結果から、生徒の読書時間が少ないことが課題となっていたため、今年は1週目と5週目に、読書の時間を設けた。学期毎に読書記録カード(Reading Record)に書く取組をした結果、図書館に本を借りに来る生徒も増えた。Reading Recordには、おすすめの本やおすすめポイントを書き、教室前に掲示し、そこに全校生徒でコメントを書き合った。本を通して、学校間の縦のつながりや横のつながりができた。また、本年度は、教員や中3生徒によるブックトークを行った。全教員が1、2学期におすすめの本を紹介し、図書館に展示した。また、3学期には中3によるブックトークを行った。読書を全くしない生徒にもぜひ手に取ってもらいたい1冊を、生徒同士で紹介することで読書喚起につながることを目的とすると同時に、中3のプレゼン力の向上にもつながった。クロムブックでスライドを作り、質問タイムなどを作りながら上手にプレゼンを行い、和やかな時間を共有できた。事後アンケートによると、「読んでみたいと思った」「先輩の話し方が上手だった」など、肯定的な意見が多く見られた。来年度も、朝学習の充実に向けて努めたいと思う。



Reading Record に書かれたコメント

Ⅲ 小中一貫教育

1. 小中一貫教育グランドデザイン

次のような「小中一貫教育グランドデザイン」を作成し、「授業づくり」に重点を置いて取り組んだ。

(1) 中学校区における目指す子ども像

確かな学力とふるさとに貢献する力を身に付けた子ども

(2) 全ての中学校区において行う共通の取組

推進体制の構築	児童生徒の交流	教員相互の授業参観	学習の関連を明記した教育課程	情報発信
校区の実情や子ども達の実態に応じた小中一貫教育を推進するため、全教職員による推進体制を構築する。	小学生が中学生に憧れや親近感を持ち、中学生が小学生に頼られることで自己有用感を高めることができるような交流活動を実施する。	中学校区内の小・中学校が相互に授業を参観する機会を計画的に設定し、それぞれのよさを生かした授業改善を推進する。	小学校の教育課程には「中学校との関連」を、「中学校の教育課程には「小学校との関連」を明記した教育課程を作成する。	小中一貫教育の取組を学校だより、校内掲示板、スクールフォーラム等で家庭や地域に発信する。
・研究全体会や児童生徒理解の会の開催	・児童会生徒会の連携した活動 ・運動会や文化祭の合同開催	・小中一貫教育の日の活用 ・小中合同の授業整理会の実施	・中1確認問題の結果を共有 ・各種学力調査等の結果を共有	・小中共通の学校だよりの発行 ・スクールフォーラムで情報発信

(3) 特色ある取組

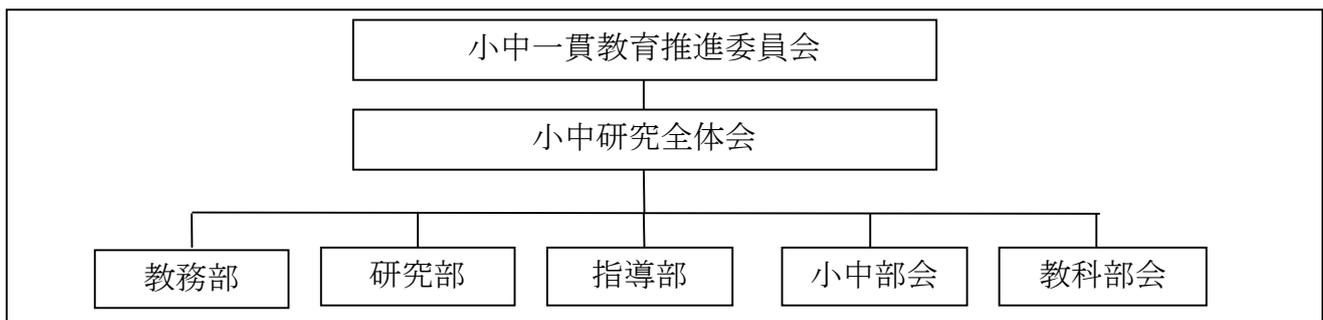
【特色ある取組】①小中交流授業や地域素材を活用した小中合同での活動を実施する。

【主な活動】・小中合同の運動会・文化祭・挨拶運動をする。小中交流授業を行う。

【特色ある取組】②学習に集中して取り組み、充実させる期間を小中同じ時期に設定する。

【主な活動】・毎月の生活目標を小中で合わせる。 ・小中でメディアチャレンジを実施する。
・中学校の定期テストに合わせて小学校の家庭学習充実期間を設定する。

(4) 組織図 ※全教職員をメンバーとする推進体制



(5) 小中一貫教育の実践

①小中一貫した授業スタイル

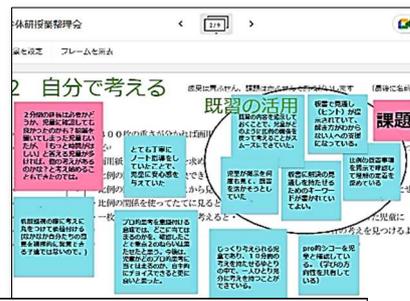
小中一貫した授業スタイルの実践を目指して小中合同で提案授業、小学校の授業、中学校の授業と年3回の全体研究授業を行った。指導案検討と授業後の整理会も合同で行い、校種を超えて様々な意見を出し合うことができた。整理会では指導主事から助言をいただき、小中連携して研究主題に迫る授業づくりを目指すことができた。小中互いの授業を参観することで、児童生徒理解につながるとともに、他校種に対する理解を深める機会となった。



全体研の授業を小中全員で参観する様子



Jamboardに成果と課題を付箋で入力し、それをもとに協議を進める



また、小中併設校の利点を生かし、自分の所属する学校や専門教科だけではなく、他校種や他教科を「ふらっと」「気軽に」参観することを目的として「積極的ふらっと参観」を行った。授業者が日時を決め、研究の重点である「基礎・基本」や「プログラミング的思考力」、「ICT活用」について明記した参観シートを配布し、参観者は授業の様子を参観の視点に沿って記入した。感想や気づいたことなどが記入されたシートは、授業者にとって次の授業づくりへの参考となり、児童生徒の現状と対策について共通理解するための資料となった。特に、ICT活用については、どんな場面で何を使えばよいか、有効な活用方法について話し合うことができた。

()月()日() [] 限	授業者()	教科()
課題<		
>		
【まごめ】		
※本時でつきたい力:		
GGAIJ-3課程を受けたICTの活用…授業のどの場面で、どんなICTツールをどのように活用するか		
【参観の視点】※授業案の授業づくりの視点としても		
○・△・ノ	または記述でも	
①本時でつきたい力を明確にして授業を進めていた。		
②課題と正対したまごめが的確に設定されていた。		
③蓄積・蓄養の習得を意図した授業づくりが行われていた。(重点)		
④プログラミング的思考力を意識した授業づくりが行われていた。(重点)		
【その他】※授業について、教科について自由にお書き下さい。		

ふらっと参観シート

- ジャムボードやキャストなどICTの活用（積極的ふらっと参観シートより）
- ・オクリンクで児童の作業場面を視覚で捉えさせたことは、「気をつけること」に視点を向けさせる上で有効だった。
 - ・良い例と良くない例を大型テレビに映して比較することで、視覚的に分かりやすかった。
 - ・ドキュメントで課題として送り、それぞれの生徒が提出していた。宿題にもできて良いと思った。
 - ・スライドを使って、プレゼンをしていた様子が良かった。スプレッドシートで作った表を添付するなど、相手に伝わりやすい発表にする工夫をしていた。
 - ・ジャムボードを使ってグループ活動をしていた。付箋を動かしたり、矢印を使ったりして工夫していた。

授業者が日時を決めるため、同じ時期に授業が重なることがあった。児童生徒への負担を考えると、研究授業も含め計画的に設定しなくてはならない。1時間の授業をすべて参観できなくても、自分が見たい視点「本時でつきたい力」「課題とまごめの設定」「重点を意識した授業づくり」「効果的なICT活用」など互いに参観し合い、小中9年間の児童生徒の発達段階に応じた系統的な指導の実践で授業力向上につなげたいと考えている。

②授業や行事での実践

小学生の学びの成果を中学生に発信したり、逆に中学生の学びの成果を小学生に発信したりする場を設定した。また、小学生と中学生との合同授業の実践も行った。

5月 結団式 運動会に向けて赤・白団の顔合わせを行い、スローガンを生徒会が発表した。



7月 小1・中3と小2・中2のプール交流

プールに入るのが初めての小学生に対し、中2・3生徒がおんぶしたり手をつないだりして、安全なプールの入り方を優しく教えた。小学生のリクエストに中学生が応えていた。



12月 小4～6・中学生合同ダンス発表会

小中合同でダンス発表会を行った。学年毎に体育で練習したダンスを披露した。



③行事での実践

運動会や文化祭などの行事を合同で開催し、小中の交流を行っている。



(6) 考察

本校は、小中併設校であることを活かして、様々な場面で小中の職員・児童生徒が交流している。長年継続している「積極的ふらっと参観」の取組により、小中一貫した授業スタイルの共通理解を図ることができた。また、授業を参観することによって、児童生徒理解を深めることもできた。

今年は、コロナ禍でこれまで制限されていた行事も、従来通りの形で開催され、小中の交流も増えた。運動会では、中学3年生が小学生と協力して応援合戦を行った。中学生の団長が中心となり、応援団が全校生徒の前に出て、応援ソングや手拍子などを教える姿が見られた。中学生はどのようにしたら小学生に分かりやすく教えられるかなどを考え、工夫して伝えていた。小学生が難しいと感じていると気が付くと、簡単な方法を考え、合同練習の最後には、振り返りの時間を取り感想を伝え合うなど、教える側も教えられる側も、学びと成長があった。文化祭では、いやさか踊りを小中で行った。太刀・傘・扇など、それぞれのパートで練習をし、合同で踊る時の一体感は、医王山の地域の方々にとっても感動の場面であった。医王山小中学校は今後も、小学校・中学校・地域の方々・教員が連携し合って子どもたちを育てていきたいと考えている。